鴨川ふるさと会だより

―第23号―

鴨川ふるさと会発行
事務局：〒296-8601　千葉県鴨川市横渚1450番地（鴨川市役所経営企画部まちづくり推進課内）　TEL：04-7093-7828

ふるさとセミナー
今昔の大嘗祭～皇室と鴨川の縁～を開催！

令和2年2月8日（土）、皇室と鴨川の縁と、明治神宮への奉納物や大嘗祭で納められた鴨川の特産品とそれらの生産企業を知り、鴨川市への理解を一層深めることを目的として、令和元年度第2回ふるさとセミナーを開催しました。鴨川市郷土資料館の企画展「皇室ゆかりのモノと場所～鴨川との軌跡～」や令和の大嘗祭で庭積の机代物として鯖節を供納した㈲永井商店、斎田跡の水田のお米でつくった白酒を明治神宮に奉納している亀田酒造㈱、そして主基斎田址公園を見学しました。

鴨川市郷土資料館では、この企画展を企画した生涯学習課の高橋さんの解説のもと、見学しました。この企画展の展示物は市民から借用したものや、宮内庁から提供された画像データを印刷したもの等、鴨川にしかない貴重なものが多く、借用するに当たっての苦労話を絡めて一点一点、説明いただきました。

企画展の初日だったこともあり、来賓としていらっしゃっていた明治神宮の禰宜（神職の一つ）をされている水谷氏からもお話を伺うことができました。この後見学した亀田酒造㈱が40年にわたって、主基斎田で収穫されたお米で作った白酒を明治神宮に納め続けていることや、明治神宮100周年を記念して、明治の主基と悠紀からとれたお米でつくったお酒のセットを企画した際に苦労されたことなどをお話くださいました。

次は、令和の大嘗祭で庭積の机代物として鯖節を供納した㈲永井商店を見学しました。髪の毛などが製品に入らないように帽子、マスク、手袋を着用しました。食欲をそそる削り節の匂いがマスク越しでも感じられる工場に入り、社長から商品のこだわりや鯖節等を削る工程について説明いただきました。実際に削るところを見せていただき、削りたての香り高く旨味の強い鯖節を参加者全員に振る舞ってくださいました。

みんなみの里での昼食後は、亀田酒造㈱を見学しました。こちらでも蔵に入る前に帽子とマスクを着用し、日本酒の芳醇な香りが漂う酒の貯蔵庫や酒蔵で、社長から酒造りの工程や、精米歩合のこだわり、無印良品限定商品の開発秘話、そして明治神宮に奉納している白酒についてなどを説明いただきました。

最後は、郷土資料館の高橋さんと合流し、主基斎田址公園を見学しました。主基斎田に卜定（ぼくじょう）された際、加茂川より高い位置にあることや近くに溜め池があることから、水害や干ばつにより米が収穫できなくなる可能性が低いため、当時の花房藩が現在の主基斎田址公園の辺りを選んだことなど、令和元年度第1回ふるさとセミナーで学んだことを実地で再確認しました。

今回のふるさとセミナーで、皇室と鴨川の縁の深さや、鴨川の誇る企業と特産品について学ぶことが出来ました。

郷土資料館の見学

㈲永井商店の見学

亀田酒造㈱の見学

主基斎田址公園の見学

会員のページ ⑯

「ふるさとの魔力」

鴨川ふるさと会
監事　山田　健男

昭和8年生まれ、上皇陛下と同年で戦中戦後の極めて厳しい生活を生き、復興を支えた国民の一人である。父の仕事の関係で屈指の豪雪地新潟の十日町で生まれたが、太平洋戦争勃発の昭和16年、父は軍属としてビルマに派遣されマラリアに罹り不帰の人となってしまった。小学校3年生の時であった。やむなく母の実家南房総市和田町に身を寄せ、母は魚の行商をして生計を立て、私はそれを手伝いながら鴨川市にあった旧制県立長狭中学校に進学、卒業し縁あってイデア工房鴨川出張所で働くことになった。イデア工房は本社が東京にあり、バッジやメダルを製造販売していた。病弱だった社長の実弟山田信が、気候風土の優れた鴨川に出張所として開店し、学校を相手に営業していた。厳しい環境の中で育った働きぶりが店長に認められて養子にされることになった。23歳の時であった。

県南の小・中・高校を訪問し注文を取り、夜間整理して発注し期限内に届けるのが日課であった。当時、自動車はなくすべて自転車を使っていた。途中でパンクし、当時の木更津中央高校の真板益夫校長先生にお世話になったことなど忘れ得ぬ思い出である。

やがて千葉県は京葉工業地帯の造成とともに首都圏を中心に人口急増期を迎え、学校新設ブームが起こった。昭和45年（37歳）、鴨川に営業の拠点を残しながら県都千葉市へ進出することになった。畠山一郎先生のおかげと言ってもよいほどお世話になった。

当時、長狭高等学校卒業生は優秀な方が揃っておられ、県庁幹部をはじめ早川恒雄千葉銀行頭取、畠山一郎先生、相川勝衛県教育センター所長（後にいずれも県高等学校校長会長）、池田一男県教育センター次長、千葉市教育委員会企画課長（後に県中学校長会長）などがおられ、同郷同窓の後輩として訪ね親身も及ばないほどお世話になった。

新設予定の京葉工業高等学校が校章デザインを公募しているとの情報をいただき、早速応募することにした。実は長狭高等学校時代に美術の吉田先生の影響でデザインに興味を持っていたのである。多くの応募者の中から運良く採用されることになった。校章デザインが採用されると校旗やバッジも受注するようになり、営業の転換期となった。都市部では小・中・高の校数が倍増されるとの情報を得て新設校校章デザインの作成に集中することとした。事業の拡張とともに社員も増やしたが、コンピュータを中心とした情報時代に入りコンピュータデザイン技術を取入れることになり、デザイン専門学校卒業生を採用し体制を整えた。おかげで新設校を中心に１９０校の校章を作成した。電車の中で私のデザインによるバッジをつけた高校生などを見かけることもしばしばあり、親しみを感じつい声をかけたくなることもあった。開校式に校章考案者として招かれ感謝状をいただくことも多く、勲章として社内に飾ってある。

当社の業務が自衛隊に認められ、高官の退官記念額として採用されたのを契機に自衛隊に出入りするようになった。自衛隊は警備も厳重で一般には敬遠されがちな官庁であるが、高官からの注文とあって意外と安易に出入りができた。その中には長狭高等学校卒業生もおられ次々と紹介していただき注文も増えていった。自衛隊関係事業は当社の一部門として定着している。今では自衛隊の信頼も厚く、自衛隊千葉地方協力本部自衛官募集相談員に委嘱されるまでになった。

今にして思えば「ふるさと鴨川」、「母校長狭高校」の名を頼りに歩んだ人生であった。千葉銀行本店の受付で「鴨川出身で高校の同窓です」と自己紹介しただけで、滅多に入れない立派な頭取室に案内される。全く「ふるさとの魔力」としか言いようがない。自衛隊でも「鴨川出身で高校同窓です」と名乗るだけでお会いできる。営業マンとしてこんな有り難いことはない。県庁の「県庁長狭会」の特別会員として加入させていただけたのも長狭高校のおかげである。正に「ふるさと鴨川」、「母校長狭高校」の魔力である。お陰で昭和51年には法人化し株式会社にするまでになった。このご恩は生涯忘れることは出来ない。いささか自分史じみたが感謝の気持ちを込めて書きあげた。

明治生まれの文豪室生犀星は抒情小曲集の中で「ふるさとは遠きにありて思ふもの」との名言を残しているが、私の場合は「故郷は近きにありて頼るもの」である。

新規会員を募集しています！

会員を募集しています。今回、会報発送に併せて、会員募集チラシを同封させていただきました。

会員の皆様のお知り合いの方で、鴨川出身の方や鴨川にゆかりがあり応援したいという方へお配りいただくなど、会員の募集にぜひご協力ください。

掲載記事を募集します！

会員の皆様からの「鴨川ふるさと会だより」への掲載記事を募集しています。日頃感じていることや、ふるさと鴨川への想い、身の回りの出来事などを会員ページに掲載してみませんか。

今号では、監事の山田健男さんに「ふるさとの魔力」をテーマとして、ご寄稿をいただきました。ありがとうございました。今後も、この「鴨川ふるさと会だより」を、会員同士の交流を深める場、報告の場などとして、どうぞお気軽にご利用ください。

オルカ鴨川FC 2019年シーズンの報告

▼なでしこリーグ2部を4位で閉幕　1部昇格ならず

チーム結成6年目を迎えたオルカ鴨川FC。2019シーズンもなでしこリーグ1部昇格を目指して全国のチームと渡りあってきました。

今シーズンのオルカはリーグ戦開幕から4連勝と好スタートを切り、オルカの自慢のディフェンス陣がチームを支え、オルカの失点はわずか「9」。リーグ最少失点を誇る驚異的な堅守を基盤に前半戦を2位で折り返します。

しかし、後半戦になると各チームが戦略を研究し、前半戦下位チームも力をつけ、毎試合どのチームが勝ってもおかしくない展開に。最終節まで4チームが1部昇格に望みをつなぐ大混戦になりました。

オルカは最終節で勝てば優勝の可能性がありましたが、1対1の引き分けで勝ち切ることが出来ず、1部昇格は来シーズンに持ち越しとなりました。

▼熊田新監督のもと、2020シーズン始動

昨年末で退任した山崎真監督の後任に昨季までチャレンジリーグ（3部リーグ）のNGUラブリッジ名古屋を率いていた熊田喜則氏が新監督に就任しました。熊田氏は福島県出身の元サッカー選手。日本の高校、大学、サッカークラブだけでなく、2011年にはミャンマー女子代表監督に就任するなど海外での指導歴もあります。

今シーズンは、熊田氏の指揮の下、新たに5人のメンバーを加えた新体制で5月2日（土）からスタートする開幕戦に挑み、念願のなでしこリーグ2部優勝を目指します。引き続き暖かいご声援をお願いいたします。

順位	チーム名	勝点	試合数	勝	分	負	得点	失点	得失点
1	愛媛FCレディース	36	18	11	3	4	26	19	+7
2	セレッソ大阪堺レディース	35	18	11	2	5	38	21	+17
3	ちふれASエルフェン埼玉	34	18	9	7	2	28	15	+13
4	オルカ鴨川FC	33	18	9	6	3	24	9	+15
5	ニッパツ横浜FCシーガルズ	28	18	8	4	6	21	19	+2
6	ASハリマアルビオン	27	18	8	3	7	29	19	+10
7	スフィーダ世田谷FC	25	18	7	4	7	22	19	+3
8	大和シルフィード	13	18	3	4	11	12	28	－16
9	バニーズ京都SC	13	18	3	4	11	8	30	－22
10	静岡産業大学磐田ボニータ	6	18	1	3	14	10	39	－29

千葉ロッテマリーンズトピックス

2019秋季鴨川キャンプは、令和元年11月1日（金）から11月15日（金）の期間で、井口監督のもと、選手・コーチ・スタッフ約65名で行われました。

キャンプ中は、初日から打撃回り、ロングティー、重いタイヤを使った打撃練習等、飛距離アップに向けた練習や、ランニングやインターバル走など体力強化メニューが組まれ、内容の濃い秋季キャンプとなっていました。

キャンプ前には、台風や豪雨の影響で鴨川市の運動施設も大きな被害を受けました。そのような中、キャンプ期間中には、義援活動の一環として、千葉ロッテマリーンズ球団主催でチャリティオークションや小学校訪問が実施されました。

11月10日（日）に行われたチャリティオークションでは井口監督や選手たちの道具など全48点がオークションにかけられ、191万9千円が集まりました。後日、井口監督が市長を表敬訪問し、全額が鴨川市に寄付されました。

また、同日、野球教室が開催され、市内の少年野球及びソフトボールの8チームから約130名の子供たちが参加し、憧れのプロ野球選手に指導を受け、とても貴重な時間を過ごしました。

来季に向けてのチーム編成の期待や話題もあり、連日、マスコミ各社が鴨川キャンプを訪問。インターネット・ラジオ・新聞・テレビなど多くのメディアに鴨川キャンプが掲載・放送され、鴨川のPR・知名度の向上につながりました。

2020シーズンについても、「キャンプ地鴨川」としてマリーンズと様々な企画に協力し合いながら声援を送り続けます。

ふるさぽーと寄附金（ふるさと納税）

▼令和元年度における取組

平成31年4月から、事務の効率化を図るとともに、魅力ある謝礼品の掘り起こしや情報発信の強化などを行うため、ふるさと納税業務を鴨川観光プラットフォーム株式会社へ委託しました。これにより、商工会や旅館組合などと連携し、宿泊時に利用できる「電子感謝券」の導入をはじめとした謝礼品の充実を図ったほか、ポータルサイトの情報ページの強化などに取り組みました。

また、コンビニエンスストア払いや携帯キャリア決済など、クレジットカード決済以外でも寄附を納入できるマルチペイメントサービスを導入し、寄附者の利便性向上にも取り組みました。

この結果、令和元年度の寄附金額は大幅な増加となっています。

会員の皆様にも多くのご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

なお、ふるさと納税のお申し出は、年間を通して随時受け付けていますので、今後ともご協力をお願いします。

寄附の手続きや、謝礼品の内容等の詳細については、「ふるさとチョイス」または「楽天ふるさと納税」をご覧いただくか、鴨川市ふるさと納税事務局（鴨川観光プラットフォーム株式会社）までお問い合わせください。

☎04(7096)7030

楽天ふるさと納税

ふるさとチョイス

▼台風被害の復旧に向けて
災害支援を募集

昨年9月9日に千葉県に上陸した台風15号による被害への支援を募りましたところ、令和2年2月29日までの間で、3058件、4084万1844円と多くのご寄附をいただきました。

いただいたご寄附は、小中学校や野球場をはじめとした施設の補修など、台風被害からの復旧に活用させていただきました。

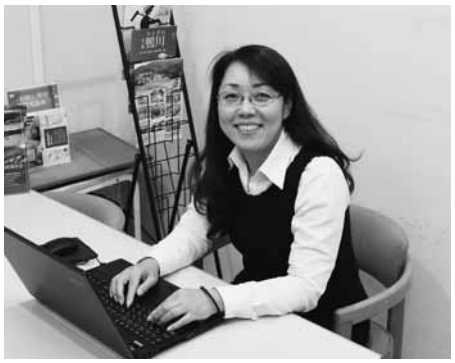
鴨川への移住・定住をお手伝いします！地域おこし協力隊員を新たに委嘱

鴨川市は、令和元年12月1日から「地域おこし協力隊員」として、山中幸恵（やまなかゆきえ）さんを新たに委嘱しました。

地域おこし協力隊とは、総務省が推進している制度で、人口減少や高齢化などの進行が著しい地方で地域外の人材を受け入れ、地域協力活動に従事してもらいながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とするものです。委嘱可能期間は最長3年間です。

山中さんは前職の経験や宅地建物取引士としての知識を活かし、鴨川市に移住・定住を検討されている方の力になりたいとの思いから、地域おこし協力隊への応募に至っています。

現在は自身のスキルを活かしながら、空き家バンクで取り扱う物件の掘り起こしや移住・二地域居住などに関する相談、首都圏における移住関連事業への参画、移住定住に関する情報の集約と発信などの活動を行っています。



◆隊員プロフィール◆

■氏　名　山中幸恵
■出　身　東京都目黒区

専門学校卒業後、都内の不動産会社等で宅地建物取引士として勤務。

2018年から移住を検討し、鴨川市ふるさと回帰支援センターが開催する「いきいき帰農者セミナー」に参加。地域住民との積極的な交流の中で、鴨川に住む人や自然、地域性を気に入り、移住を決意。

このほど、鴨川市から地域おこし協力隊員に委嘱される。